



道二編道行四篇
下

九

□ 9
3406
9



道二翁道話四篇卷下

浪華 八宮齋 輯

一佛成道觀見法界草木國土悉皆成佛と。
 釈迦如来も始めて月が是れと和泉武都の強う
 変り本も佛ありと説法のもとけりつれは様々。
 今門と二ツの流を足付このトや天燈がけしも
 私心いらい谷蓋の様でし人の見えぬ不ふやと
 ておどろくよも嘆ぬ様ふいまことけりしん。
 その流を流つたものも阿の一字は阿字ハツグ
 又もぞ流の中の流れくもけりくも物

故
 櫻井理行氏
 大正十四年
 十月廿三日
 櫻井氏の
 寄贈
 書圖

9
3406
9

一神。そましく乃飛のころまことをおりり。らう
くかあつく馬や董のゆむらうむやるい。本林
羅一カ像阿字のたうき阿字のぬるのトや
けやう又私いんが自腹しこく後五五で
もうい。釈迦如來も天上天下唯我獨尊と云
てござるも外のものむやるい。け阿字のけう
と。よま梵天三十三天のまご上う。下い令輪な
らくの庵まてはうぬべく。壽命の限うるい
る。むを久遠劫う。盡未來際まを法通し
漢トや。をも同う。然うはらじ。ま三三世界とらんと

も。大海の粟一粒トや。泥や其の中の泥くとも。何れ
のゆぞ。眼貝よ一まのやどり。か別と隣と一ま。
ごふのゆみのくつふま。埒の明ゆでもるい。け
まどけ。眼貝の中へ三三世界をいさるりのい。宥
ままど三三世界へ眼貝と入るゆ。が出ま勝い。その
答トや。三三世界より眼貝が。大キイりのサア。まが。大
新乃。石トや。どるも。も入て。はらう。じま。せぬ。何
も。むのじいゆトや。るい。右の明德をま。ちんゆ
うふ。ころのトや。故之。彌六合。卷之。退藏。密
あり。け。限う。も。るい。大。ま。るい。の。と。ま。ま。終。く。の。心。く。て

道法四篇 卷下

居るが。何がやういひのやういひも止さういひ止さうとて
 何よりも不自律なる事とす。け先又天の難一ツを
 さん天も大神也若勞と思ひにうたやういひを法
 もとて入るるの中。三世の諸佛梵天帝釈に
 天王八百万の神達水神令神。山の神。木の
 神。つよよ及び此世界中うけよ一ツを大切守
 護してござらるるは則天のいのちやさう
 いよまもるるに。おまごのトや。おまごが難トや
 おまごが身で。おまごがとらるる後。何と。いひので。お
 まごが家トや。おまごが金トやと。やうまううま
 思ふ

る。目をぬて。藤どとのみさるるとののまや。ま
 とそい勿律る。一向人さるるの。まもるるは
 ろい。先今日。現銀さうは女猫。養育はして見
 ごとよ。善天の下。年出の。候。つ。ま。王。出。よ
 け。つ。び。と。ら。ふ。し。就。ま。ば。ら。く。び。一。ツ。ら。の。さ。え
 一ツも。皆。天。の。出。た。う。い。け。や。う。い。ひ。の。つ。て。い。る
 も。乃。ら。る。め。又。天。の。ま。の。の。ト。や。天。何。と。い。ひ。の
 云。い。さ。う。由。人。又。神。上。よ。命。せ。し。ま。う。く。天。の。か
 民。を。救。け。給。ふ。則。神。上。が。天。の。御。名。代。る。ま。は
 成。よ。ま。ト。や。人。の。御。上。の。の。う。て。け。る。は。と

まうの致しものトや。云ふよりて一世と今も勤め
あふせむのよき縁終りては。御上より立置
る。此等の改めを清く。隣家の他人を以て一
家親類送り給へ。此より立置る。養附り此
坊が清くえらぬトや。い。相酌向ふ葬礼して
御上の地面は知れぬ其後町内の人別と除く
是でこれけり。此の御上の物からし。性
得心あるがよい。まう。又御上の令報未終とん
て死者の追福満入用を立置る。此の御上の
る。い。ま。でも。合点の悪い人。我家や我入りの

よある。令の御上より我りの御上。又。深素洗返ふ
あひ清てあるものトや。ま。ま。と。え。素。御上のもの
る。れ。が。何。時。右。と。う。と。の。ま。ま。も。仕。や。う。ま。ま。い。
ま。で。り。ま。る。る。大。意。大。意。の。け。ま。り。に。民。と。う。ま。ま。
後。く。を。ま。け。士。の。不。義。不。義。と。礼。と。同。百姓ハ
農業の良商人職人の市井の良とてま
の家業のよき御上ありて利益と中するま
を天福として今日を送る。是ハ云いでも。知
ま。り。ト。や。右。中。通。り。ま。ま。の。よ。ま。ま。で。目。出。う。明。記
ま。ま。の。で。ま。人。皆。是。御上。乃。此。世。活。ト。や。況。や。送。死

撲死のりのよかめてい。沖檢後ををいさし吟味よ
ぎんじしてぬ白又沖紀くさうのうき是が或又天の
沖制度とらふものトやうい。一つく能く味ふく
見とがよいけやう又沖上のうを銘く其の口の
踏又やとるも恐き多いゆるれど。子仇流や女
子流の是と何ともおりたよぬる。勿律るのこと
トやを何よとまうぬ中候のもの。女房と唱
んで子が出来る。自らの慥と持何そびに
らんと換よとふてゐる。たまひとるいゆトや
是れ沖上より沖立或る不の宮寺へつきて

集りけ度うやうれりのが。おせいししてごさうり
まはと。沖上中とる。け宮寺の或又天の此出度。
そこの地を守護はし下さる。神佛の則天の此名
代るゆへ。法目久候とせそ上沖上の人別候。
お記とでいりう。まよよりそ我子なぐし。此
でし付るう殺害でもとるし急度と科と此記
ふさの。是で我子も我子にあ。此我子も我身
よ何くぬを能く知門とがよい。まよ百姓も
町家でも。おと。因大勢うし。金銀の婚へも
何と。おとがりのトや。おとが令トやと。元陸を

まゝをのふく。ホキくくどろ其令根米後家厨法
 乃具のやよ及び後裏の埃場の茶一本まで。皆
 天のいのトや。どんと我りのとのよの灰まこらなる
 い。我りのでいろの泥埃が。どろこでも腐る時糞のど
 こに何のまどろ人終夫まこぞ。腐る染り外のりの
 目よのんえろ。けまと腐るこのいとんとまらぬ。知らぬ
 若トや。本末をの天トや。ふトの白なる。物目でと
 ける。若と我との腐るとける。どろふとせう事がるん。
 嘘なら腐る。耐えてあろろ。本末くくく。の息
 ぶろろ。其耐とのろり。知らぬやせぬまで。目が

ぬと押さぐのトやくとあふが。そやうなる具りきる
 物の換又二色と三色と何のりのトや。ぬ。絶くは
 中うよん。うづうとるも。中うなり。天のかり。おトや。
 までの。世トや。天のかり。のろ。こそ。天の換
 ら大切なる。下とる。其天の換料物を。腐いの
 可也の。けいの押。いの何のの。死でい。ぬ。腐る
 まらぬが。どろ。糸ぞ。と。律。は。糞。ま。で。煮。て。行。く。や
 ち。ぬ。下。や。あ。ろ。地。水。虫。風。の。に。ツ。も。腐。して。仕。也。ひ。
 跡。ろ。一。ツ。の。本。末。の。室。ト。や。是。れ。本。末。へ。帰。して。仕。
 也。ひ。何。れ。も。と。ろ。ろ。や。んと。お。こ。ろ。ま。ま。く。

まひ仕止ふと病が引流りて。生涯何のわのくも
 やくやいな。小玄の物たるなり。脊うう負ふて。死
 出三途の石中トヤケれども。虚をせにしらぬ
 器を。虚空の中へ持て。這入て。移月ううまうも
 のぶやうの丁と。風の脅さうなるので。そなは様
 なるい。不火又天の法。湯乃蒸。蒸でむ。こて一厘
 一毛も。遠りぬ中う。又製法なる。先が。能う。ささりの
 トヤ。けし。でもよ。い。病が。何ま。は。こへ。引。と。て。人。と。流。る
 りの。と。ぬ。し。又。け。して。も。悪。い。病。の。一。生。漂。泊。愁。ひ。災
 難。病。難。斤。輪。衣。の。麻。會。歎。魚。蟹。虫。々。の。難。ひ。と
 後。く。と。ま。ぶ。く。又。病。と。仕。ま。け。て。又。形。を。に。し。ら。ぬ。く
 働。う。凡。能。あ。い。の。ト。ヤ。そ。中。で。も。ま。け。の。ま。ま
 ぬ。不。い。皆。く。そ。葺。く。ある。先。が。又。天。命。ト。ヤ。け。天
 乃。義。用。と。ら。ぬ。の。中。く。人。間。の。及。ぶ。不。て。ま。る
 い。天。乃。の。の。ト。ヤ。と。ら。ぬ。を。性。又。定。一。こ。が。よ。い。
 去。よ。よ。の。と。け。骸。を。三。世。諸。佛。梵。天。帝。釈。迦。天。王
 八百。萬。の。神。達。の。守。護。と。ら。ぬ。と。い。ふ。なり。と。の。天。子。換
 より。下。庶。人。と。ま。る。ま。で。須。彌。山。の。國。と。は。ト。事
 志。や。先。姓。い。銘。く。と。も。の。な。ま。り。て。ま。ふ。て。ん
 中。う。う。う。蚕。も。濕。氣。と。吸。ひ。風。の。死。血。を。喰。ひ。ぬ。も

まひ仕止ふと病が引流りて。生涯何のわのくも
 やくやいな。小玄の物たるなり。脊うう負ふて。死
 出三途の石中トヤケれども。虚をせにしらぬ
 器を。虚空の中へ持て。這入て。移月ううまうも
 のぶやうの丁と。風の脅さうなるので。そなは様
 なるい。不火又天の法。湯乃蒸。蒸でむ。こて一厘
 一毛も。遠りぬ中う。又製法なる。先が。能う。ささりの
 トヤ。けし。でもよ。い。病が。何ま。は。こへ。引。と。て。人。と。流。る
 りの。と。ぬ。し。又。け。して。も。悪。い。病。の。一。生。漂。泊。愁。ひ。災
 難。病。難。斤。輪。衣。の。麻。會。歎。魚。蟹。虫。々。の。難。ひ。と
 後。く。と。ま。ぶ。く。又。病。と。仕。ま。け。て。又。形。を。に。し。ら。ぬ。く
 働。う。凡。能。あ。い。の。ト。ヤ。そ。中。で。も。ま。け。の。ま。ま
 ぬ。不。い。皆。く。そ。葺。く。ある。先。が。又。天。命。ト。ヤ。け。天
 乃。義。用。と。ら。ぬ。の。中。く。人。間。の。及。ぶ。不。て。ま。る
 い。天。乃。の。の。ト。ヤ。と。ら。ぬ。を。性。又。定。一。こ。が。よ。い。
 去。よ。よ。の。と。け。骸。を。三。世。諸。佛。梵。天。帝。釈。迦。天。王
 八百。萬。の。神。達。の。守。護。と。ら。ぬ。と。い。ふ。なり。と。の。天。子。換
 より。下。庶。人。と。ま。る。ま。で。須。彌。山。の。國。と。は。ト。事
 志。や。先。姓。い。銘。く。と。も。の。な。ま。り。て。ま。ふ。て。ん
 中。う。う。う。蚕。も。濕。氣。と。吸。ひ。風。の。死。血。を。喰。ひ。ぬ。も

人の意と禁し心腐る家宅又後て急忠と喰し
く人の災害を拂ふ役人なきば燃や八百萬の祚
達屋敷け身をなるといふものトやういふ是が由
又天命天の法令とらふものトやういふ情るいふが
あふやて商人が天命の職をもちりてをなえたる
利ときぬえてのみよといふれと人欲の私心といふ
ものが出てツイを女に下すも又欲なりて或ぬり利と
貪るトやまが由又天命又背智由人の災いや
ぬく難きとるといふトやうなるので風と天命の
食の濕氣を吸りと吸してなるる人の害も

らぬ事ごとくいふも私心が出て味いふ事なり。大分の
正血をむさがるトや。ソテ梵天帝釈いり終へる右
の手乃毘沙門天由又風と引つま。大胎乃丸とふ
ちんと刑罰し終ふ散り又をなす。人の意と禁
めてぬる向の自別の後若ゆ人管にさうぬ。これと散
り私心が出て正血と盗むゆへたりの女のお困天
王大とひろげひ志なりと。斤女の夢の刑罰罰を
是が神佛でも菩薩方でも殺生の志といふの事く。
罰の當といふの事いふれと天命の刑罰同といふの
トや又すつてごふも是れなる其外毒と嵐と大し

猿と狐と狸と一切禽獸はどるや。おのましくが
天命の職分を守りてあり中の皆守護神とや
これどがしでも私心と出せば変り天命は背由人
衝刑罰を造る。ゆりるぬ何ぞ非佛の法慈恵
源いといふも。まもよい。是れよいといふも。法教
なされて流らじませ。世界に丸で腐て仕ぬる西仇の
たぬの落しやうぬのまや是れと考考なこに
て流らじませ。何と面白いうがむらじ。まもある
トや流らじませぬ。大律を難いもの。や流らじま
せぬ。人人の二箇の小天地。けぬの須彌の四洲の難

飛て三十三天り。令論さくくもぬ。ゆるては法華
天帝釈にも天り。皆天の御を別トや八百一乃
非達と一切天の法他物と遠い。い。疾も。藤ての
る。付登殿が喰ふ。我れ知。びぬ。ある。ま。は。是。か。働
いて制止してある。皆是天の法切用て。変。ま。の。御
別トや。流。考。て。流。ら。じ。ま。せ。福。門。う。天。又。私。心
ある。藤。て。の。付。も。記。て。あり。付。も。空。語。空。語。合。一。う。ふ
て。は。ど。の。ま。や。け。や。う。又。世。活。な。る。天。ト。や。流。ぬ。
連。の。ゆ。ふ。の。そ。ま。ま。う。せ。は。し。て。流。ら。じ。ま。せ。お
何。し。と。も。何。よ。も。流。き。ひ。な。る。ゆ。り。は。ど。り。ま。せ。ぬ

世を打殺して。今日乃天命又あるが
 ひ教の無う大切と勅るのトや。を教とはとふぞ。
 則今日が道トや。終くものやうな愚智を智な
 ものでし心毒の勅るや。天う書付とめて教て
 ござる。ん悪漢なる御制れの字則天の御云系
 天の由夢也いづも漢で群徳のま
 一親子兄弟夫婦と始れ諸親類又志しく下余
 又あるまでこれとありまじし主人の軍にか乃
 くそなき又情と出んべき事
 一家業とあるは情なるなく万のそを限る事

一つよりをばし又い無懼をつい熱トてへの害も
 ぶたれり又いづらざるや
 一博奕乃類一切禁制之幸 尚け外ハ勝之
 何とも難いを造他なる由一でないう。とんぞけ通
 と終くごまぬ勅めし。いなるの神乃の教儒
 乃佛乃の教トや皆是法の由夢なりなり。或も
 天の由云ふトやけ通りを勅り人としてや。或も
 安令高貴解習子孫長久の御祈禱トや又安
 令子孫長久とれ誰がふふるも。皆終く其の
 くの遠くありトや。安を能く合点のさう

せしめども心も主のよなることけ換ふ所の
 るふ。世活さうるやど。然考てはらうし
 ませテテ先が何ぞむけしひの。親子兄弟夫婦を
 始々諸親類よまじうして申相で著しの下や錢
 限り入ぬる出来る仕よいの天と一や。又後まで
 喧嘩するやと仕障のゆゑなれどまが若くせんぬ
 ての中人相合で著しを。何ぞかまひのゆゑのやうぬ
 おふと。ごふして是が勅まりのので。勅めてもんじ
 又天窓うへ退屈して。れをやるは方余業の所を聞さる
 勅めてんさうよい物なるは方余業の所を聞さる

ころ三日勅めてはらうしませ今疾う工面して何
 との朝とふう。祝て水をつい先、所を祝と後
 祥。親孝の今日が初日。一家親類申相相
 の始り何とぞ今日一日首尾終。勅めして下さう
 きせと。くふ一日の祝をうける。叔親は換う始りけ
 る親父攝由膳と申あうりなうりませ。おお世をい
 ませと。叔何を聞さるや。ゆへ奉りて親類
 儀の著るおんつう人どこそと入あうてさんどませう。
 又度つう。只今ゆいほしこと。まも口を申らうし
 てさふふんかぬぞ。陸かよくと申さる

うまゝ。母換乞いごふのしませう。親又様乞を賞
 ましても大事ごごうませぬうと。ツツく親様方と
 お話して飯も残すゑきまゝとるらぬ。親
 又様のう内体とるまゝと母様りう内体とたさ
 さませとてあまふておらうじませ大決心のいりトや
 けごりませぬ又先分りるも其あつよむのまじらう
 どののトや。其外諸親類のるも少しでい多事りも
 此法及忽天下の存人かみりおやと海く悲し
 一家親類よりらうと互程の事いふと素とも。如
 左換由をくことと業いしてお返り致しませうと。

みこしくして書いのおや。一日勤めておらうじませ
 其の麻節の岐とんと極楽世界トや。乞程のくちを
 出来入のい。何よもむのじしい事おやといせぬトの大
 人のあまの心と共りごとつと。いこの生とまにあて勤
 るのトや。扱扱目も又一日の勤けける。ごふを今日一日
 勤めして下さりませ。いとううの芝居も見え外酒
 も飲む茶をへも好むくちもおつごふごふ一日と
 ろも勤けける。毎日くをあつ又一日づの勤け
 て勤める乞が退屈せぬまじらうのトや。ごふでもゆ
 のるい。いしくい。ごふを奉抱して十日やと

嗟と云て勅ておらうじませ。そふとると御腹の中
 又候いふを是ゆ。まう若僻は是く後く何と
 るふ勅するものぢやそかまうに勅め押せうと云
 のしや。けつをさせうと云うの神の教儒を
 佛の教トや八万余卷に書立候も。孔義三百威
 義三ふも。けつトや。是が勅としうと云うて天照
 を神様も。孔子様も。釈迦如来様も。阿弥陀様も。三
 世の諸佛并も。八百万の神達も。惣ぐるふめての所
 候しや。と云そ一日たりと。は勅をされておらうじませ。
 又其日の所は。海を渡る。扱中人あはる。まはる。

是と云いしむ

心せよ。はる人のもいふぞ。我らも。まはる。押しん。く。ん。く。
 主人たる人の家内の者。と云ふぞ。よりのう。と。を。
 是にして。中。と。心。を。起。し。て。よ。い。家。内。の
 者。と。云。ふ。も。は。る。も。は。る。身。出。世。に。して。中。に。は。我
 且。那。と。云。は。ま。い。と。物。を。ま。さ。が。よ。い。阿。弥。陀。如。來
 と。は。ト。平。教。を。起。し。て。見。さ。が。よ。い。は。家。長。久。の。基。い
 ぢ。や。又。と。云。ん。が。出。ま。ら。ば。且。那。波。を。ア。め。り。て。休。ん。ど
 が。よ。い。我。勝。を。め。り。う。ま。を。人。を。追。ひ。出。し。が。い。いた
 ころ。か。の。う。い。天命。と。宵。く。智。人。ト。や。雪。の。後。候。も

世の病も揃ひにコレや長吉八百屋へ住てゐるまで
 こい。いづく丁雅友撰所うごん屋で精ハ是喰ふそ
 ござる。皆教がうじの後ろのドや。隠れりやうぬか
 くまらるより取らるはし。主後諸君智人志やぞん
 「主人の輩も世の〜其奉るは睦と物んバきり
 天地の間より主君の姿のよのまろの目より皆主人ドや。
 くれども寝でい先ッ美ハ危や小彼危能ッ吾也んご
 り〜りややけぬを〜はぶななは〜んこと〜。
 なま〜は〜日〜け〜い〜主人のり。我身〜ら〜ま
 若子微葉〜る〜是の少胎の先の丸の垢まで〜る〜

主人のりドや。けのいを〜と物ん親法方が能〜い
 付てやう〜やけぬ我子な〜〜世活が出来〜
 るゆ〜主人と教〜其〜一生の牙の納を教〜の
 志や〜い〜スリヤ大律敵〜〜い〜付てやう〜や
 らぬ又甘〜る〜危〜能ッ合息〜〜い〜主人の今
 日の命の親ドや。た〜人〜一〜夢〜夢のな〜でも〜
 こと〜ろ〜の天命のな〜ドや我身〜ら〜い〜の
 ら〜皆主人の難ドや。それ〜主人のわ〜ら〜い〜が
 ろ〜と〜悪いと教を暖ら〜し〜ひん〜く〜解〜ア〜モウ
 隠〜え〜外〜へ〜外〜へ〜外〜へ〜日〜隠〜ぬ〜こと〜。母の

とろ心の暗害瓜あつたにどく人権て互身出世たまな
罰にらう一生不仕合よあけやちやうぬ使ひよ出
せば嬉びとる。愛喰とらう。とらうり警古とらう。三
味線あつとらう。身の慰とをかせぐ外をを難と
ごころう。後と出よりのとやぞ。女中方を云の角
男將配とると終く夫の極んさ守。一生不仕合
なぞ。皆天命と宵の友難をせよやちやうぬ。うみ
るれがとらう。まいつけついののつらまいつくの前
尾が。節巻とらう。あつと。来ると。を終く。主人の物
を私とらう。あつとらう。こつひののよや。それでもさうぬ。

建りの幕よりと罰にらう。それくし。ごんく。罰にら
たま。あつと。とらう。く。法人。呼物。親兄弟の別と仕
あつと。ともつと。い。欠。あ。あ。扱。首。う。う。大。既。は。定。の。初
烈とや。毛が。いや。さ。ふ。想。と。が。あ。う。う。う。て。は。世。落。る
と。は。の。と。や

一家業を専はし。悔とらう。な。く。万。事。其。が。限。よ。る。こ
ど。う。う。と。ら。う。り。我。高。貴。の。外。よ。う。ま。い。と。も。あ。つ。と。ら。う。先
も。あ。つ。と。ら。う。石。付。の。り。し。け。を。翻。し。と。高。貴。不。情。で。
の。う。く。と。ら。う。事。業。は。く。は。法。度。を。や。其。が。限。よ。る。
ど。う。う。と。ら。う。い。食。物。う。と。る。物。う。と。は。じ。う。は。是。と。ら。う。

むいせぬけきよのいけ限とお慮りて我身と
 引合し少くても奢るるをわりの皆河法度
 トヤ。その人よホニくもろの尚林がまいぞ我家
 業と大切して陸を仕合せ孫又譲りより外
 又人よ用ゐるのまよらうとでもよい家の善法と
 見ろ人かよいものきくわると咽かまじ借儀
 しても負まいくと力ぬゆるまよていまけも
 むいせトヤ。別して女中方番具屋呉服やが来
 てもせぬまよとせぬのトヤ。わいぞ。是の我身
 引合しせぬけきよの何かどの徳あるものぞと。

むいせぬけきよのいけ限とお慮りて我身と
 引合し少くても奢るるをわりの皆河法度
 トヤ。その人よホニくもろの尚林がまいぞ我家
 業と大切して陸を仕合せ孫又譲りより外
 又人よ用ゐるのまよらうとでもよい家の善法と
 見ろ人かよいものきくわると咽かまじ借儀
 しても負まいくと力ぬゆるまよていまけも
 むいせトヤ。別して女中方番具屋呉服やが来
 てもせぬまよとせぬのトヤ。わいぞ。是の我身
 引合しせぬけきよの何かどの徳あるものぞと。

うぬぞ我々の勝むむらうむらうのい毎程一
 ておろのトヤ。無理むらうを望く所法度なるや。兎
 や人の難養ぶらうをむらうも。盜賊劫盜のたふ
 して大罪人なるや。たふ人僥倖ありて暫く幸ひな
 るむらうも死人がものつておろむらうなるので天命
 造らぬ其身の果敢い其難身よまとい。難病
 又若んぞ。遠ましておろても叶たぬまが並
 天の所刑罰トヤ
 一博奕のたふ一切禁制之事子仇流元一六五
 ともむらうかて所法度トヤそ所法度又背り

皆天下の群人の内トヤぞ。天命又背り乃其終
 末が不仕合なる子仇流の友達か悪いと不仕合
 が悪うなり。とつけむらうのたふむらう。あやう
 口つてくむ極の中うよむらうのむらう。むらう
 の毒なるのトヤ。自然とむらうたふむらうの中う
 又むらうむらうをたふ朋とむらうたふむらうの親法様
 とむらうむらうして悪むらう。終末ひむらうのむ
 らうぞ。そ外緒縁縁勝負。皆博奕のたふ法
 度なるや。お角天うけ中う又。行論でもむらう指
 も又幸揃ふむらうが結構る難とむらうむらうが

らみ難いとも知らず。天乃けるで博愛あり。次血もさう。何のそちやぞの罰が當らうやう。ぬ形も人であざう。母んく見くいつておるのトや勿律のいぢあやうい。終りは家とをがし家をやぢり。子孫乃難儀の何種のもうやぞきんと改め候まひがるぬぢあや。又天命よ背き悪いぢぢせぬぢぢ。何がとらうや。あふ悪いものどたトや天の抄かやけなりので罰か忽又あうものーやうい。んじと自然とそ身の締め不なるの終り切るゝ報とりして仕とや

るぬけ天の細ともふも世界又一の張活である。んじと小人乃目あはうらぬを細乃目か何らひゆ人あはれぢの細の目をぬけて知まひよぬぢ何がとらうものトや。是とまらまのいんて。我悪いぢ我もあはれ。ううくしてぬ肉又咎ぐ大キウなる。何が細のあらうても。モウぬけぢぢらぬンテ我ぢでひぢぢりと細よりなる。能こののトや。天のあはれぬの道るぢ。なせるあはれ道とがし。天のあはれ災とは。我不覚悟人ぬ

歎なげとくん或あるの物ものの掛かり合あはれ難がた義ぎとくんのあ
とど。我われもとくんに比ひたさるる事ことは。難がた義ぎとくんの如ごとくして
そのこと あひとあお涙なみだが道みちる幸こともいふ事こと。我われとくんしては
らんと智ちり。とくんも道みち中なかうらららの友ともは。若わか子この其その獨ひとりと
懐なごむ心こころは。互たがひにううりて吟ぎん味みせしや。ううりぬぬりては
さうすま

道二翁道話四篇卷下終

享和二壬戌歲三月發行

敦厚舎之部

弘所書肆

大阪心齋橋南壹丁目

敦賀屋九兵衛

同 谷町錫屋町

本 屋吉兵衛

